

ベルリン日独センター 展覧会（会期：2025年1月27日～5月30日）

「万博対話：日本とドイツー過去・現在・未来」

トーマス・シュリーファース作品展

大阪・関西万博開催を記念して

2025年1月24日、ベルリン日独センターにて「万博対話：日本とドイツー過去・現在・未来」展のオープニングセレモニーが開催され、在ドイツ日本国大使館、ドイツ連邦経済環境省およびベルリン日独センターの代表者による挨拶、そしてドラマトゥルグ兼キュレーターであるコーデュラ・フィンク氏（Dr.）による解説をもって幕を開けました。

本展では、建築家として、またアーティストとして万国博覧会に長年にわたり携わってきたトーマス・シュリーファース氏のドローイングとコラージュから、万国博覧会における日本館とドイツ館に焦点を当て、それぞれの時代の社会的・文化的潮流がどのように建築に反映されているかを探ります。

「振り返ってみると、万博は時代を映す確かな証人であり、そこでは世界各国がその時々の生活・研究・政治・文化のほぼあらゆる側面を盛り込んだ自画像を描いてきました。万博とは、集光レンズにかけてみた世界の現状に関する断面図であり、私にとってはアトランティスのような、見事なタイムカプセルに収められた宝物とでもいえるべき存在なのです」（トーマス・シュリーファース、2024年）

作品の一部は、ドイツから日本への「架け橋」の象徴として、在日ドイツ大使館の外壁に、本年2月から展示される予定です。

#### アーティストについて

1964年、ヴッパータール生まれ。アーヘン工科大学で建築を学び、シンケル賞（アートと建築）受賞後、博士号を取得。建築家、文筆家、大学講師、展覧会キュレーター、デザイナーとして多彩な活動を展開し、フリーランスのアーティストとして主にドローイングとコラージュによる作品を制作しています。彼の活動は、相互作用や分野横断的な取り組みへの関心に裏打ちされています。過去30年にわたって万国博覧会に携わり、博覧会国際事務局（BIE、パリ）、ドイツ産業見本市協会（AUMA）、NRW州建築家会議所アカデミー等と協働してきました。また、万博建築に関する映像作品（ARTE、NDR等）や著作も多数手がけています。

大阪・関西万博の開催に当たり、1851年から2025年までの万博の軌跡をドローイング作品で辿る大型図録（ドイツ語、英語、日本語）を刊行予定です。

#### 大阪・関西万博 2025 について

1851年の初開催以来、万国博覧会は文化交流と学びの場として、多くの人々を魅了してきました。生活・研究・政治・文化など、あらゆる分野を網羅する万博は、対話を通じて人々の視野を広げる平和な出会いの場でもあります。大阪・関西万博は本年4月13日から10月13日まで、「いのち輝く未来社会のデザイン」をテーマに開催されます。

ベルリン日独センター：経済、政治、社会、文化の各分野における日独間および国際的な交流を促進し深めることを課題とする公益財団。1985年の創立以来、日本とドイツの政治経済発展に貢献し続け、本年40周年を迎えました。イベントや展覧会の他、人的交流プログラムや日本語講座も実施しています。日独両国の外務省、並びにベルリン州政府から支援を受けています。

ベルリン日独センター (JDZB)

Saargemünder Str. 2, 14195 Berlin

開館時間：月～木曜日 13時～20時、金曜日 13時～15時半。土日祝日閉館。

ウェブサイト：[www.jdzb.de](http://www.jdzb.de)

ソーシャルメディア：<https://linktr.ee/jdzb.social>

取材の問い合わせ先：那須田栄（ベルリン日独センター・コミュニケーションチーム）[pr@jdzb.de](mailto:pr@jdzb.de)

ベルリン、2025年1月